

告　辞

このたび晴れて卒業・修了を迎える学生、保護者の皆様におかれましては、この日を心待ちにされていたことと存じます。本来であれば、大学役員をはじめ全学の教職員に加え、本学同窓会長などのご来賓、さらに、ご家族をはじめとする、これまで皆さんを支援してこられた方々のご参加のもとに、卒業・修了式を挙行し門出をお祝いするところですが、新型コロナウイルスに対する危機管理上の判断で本日の卒業式、修了式を開催せず、この様なかたちで私からのメッセージをお伝えすることを大変残念に思います。苦渋の決断ではありましたが、皆さんの健康面を最優先しての判断であることを、ご理解くださいますようお願いいいたします。

そうした中ではありますが、こうして本日、令和元年度 帯広畜産大学学位記並びに修了証書を授与される皆さんにお祝いのメッセージを送る日を迎えたことを、学長として大変嬉しく思います。

畜産学部、大学院畜産学研究科、別科草地畜産専修のそれぞれの課程を修了され、今日という日を迎えたのは、多くの課題や困難を克服した皆さんご自身の努力の賜物であり、深く敬意を表します。留学生の皆さんには、環境や文化の違う地において、さらに苦労が多かったことと思います。卒業あるいは修了の時を迎えたすべての皆さんに、帯広畜産大学を代表して心からお祝いを申し上げます。

また、これまでさまざまな形でご支援をいただきました、ご家族の皆様方、関係各位の皆様には、感謝もひとしおのことと推察いたします。心よりお慶びを申し上げますとともに、今まで熱心に指導して下さった先生方、また学業

や生活に必要な支援をして下さった職員の方々にも、この場を借りましてお礼を申し上げます。

本年度の帯広畜産大学の学部卒業生は 253 名、別科修了生 16 名、大学院修了生 51 名、総勢 320 名であります。そして、そのうち 14 名の外国人留学生が卒業・修了を迎えるました。帯広畜産大学の名のもとに、これから日本の日本を支え、世界に羽ばたく 320 名の人材を社会に送り出すことは、学長として大きな誇りです。

学部卒業、大学院修了、別科修了を問わず、皆さんは実学を基調とする本学で、幅広い知識や技術を修得するとともに、研究を通して、これから直面する様々な課題に取り組むための知識と困難を乗り越える術を身に付けてこられました。さらに皆さんは、学業に加え、アルバイト、国内外でのボランティア、サークルでの活動など、異なる価値観を持った仲間たちとの議論や行動を通して、社会で活躍できる自己を磨くとともに、人生の糧となる多くの友人や、相談できる仲間を作つてこられたと思います。これから社会に出て仕事をされる方、大学院に進学される方と、その進路は様々だと思います。就職あるいは進学を問わず、これまでと異なり、自ら決断しなければならない場面が増え、責任ある言動が求められます。

皆さんは、これまでの学びの場から、社会あるいは大学院という新たな局面への扉を開くことになります。こうした今日、卒業、修了していく皆さんへの「はなむけ」として、困難に遭遇した際に思い出していただきたいイギリスの元首相ウィンストン・チャーチルの 2 つの言葉を贈りたいと思います。

『Kites rise highest against the wind - not with it. 鳥が一番高く上るのは、風に向かっている時である - 風に流されている時ではない』、もう 1 つは、『It is a mistake to try to look too far ahead. The

chain of destiny can only be grasped one link at a time. 先を見すぎてはいけない。運命の糸は一度に一本しかつかめない』という言葉です。第二次世界大戦中、多くの難しい局面で決断を下し、多くの偉業を成し遂げたチャーチルは、夙を「自分の価値」そして風を「困難あるいは反対意見」とたとえ、『自分の価値を高めるのは反対意見に立ち向かっているときであり、反対意見に迎合しているときではない』と語り、『困難に遭遇したとき、先々の心配するのではなく、足下の課題を一つ一つ解決していく』と説いています。これから的人生で皆さんは多くの困難に遭遇することでしょう。チャーチルは、一気に解決する問題などないこと、目の前の課題を焦らず一つ一つ地道に解決する事によって初めて道は開けることを教えていました。皆さんが活躍するこれからの社会において、現状に甘んじることなく困難に立ち向かい、一歩一歩、着実に歩みを進めていただきたいと思います。

本学の卒業生はこれまで約1万6千人が国内外の「生命、食料、環境」の分野で、多彩な活躍をされています。全国各地に設立されている同窓会支部には、様々な職種、幅広い年齢の同窓生が集い、皆さんが過ごされた十勝・帶広あるいは大学時代の思い出話に花を咲かせ、楽しい時間を共にされています。皆さんも、これから活躍される地域にある同窓会支部に是非参加してください。同じキャンパスで過ごしたファミリーとして、本学をいつまでも見守っていただきたいと思います。

私自身も本学卒業生の一人として、様々な場所で仕事する機会を得てきましたが、常に本学卒業生であることに大きな誇りを持ってきました。その思いはすべての同窓生に共通です。私は学長として全国で開催される同窓会に参加してきていますが、どこでも実感するのは、どの場所で、どのような職業に就い

いても、多くの同窓生の皆様が母校への熱い思いを持ち続け、母校の益々の発展のために応援してくださっていることです。今日、皆さんのが本学同窓会の仲間になられることを、学長・同窓会名誉会長として心から歓迎するとともに、明日からは色々な角度から母校を応援してくださるようお願いいたします。

卒業は、大学との別れではありません。大学は、さらなる知識を得る場、学び直しの場として皆さんのが近くに在り続けます。卒業した皆さんのが社会で直面する様々な課題とともに解決する時こそ、新たな協働の始まりとなり、大学の発展にもつながります。どうぞ、皆さんには、これからも本学と積極的に関わりを持ち続け、本学卒業生であることを活用していただきたいと思います。

今日を迎えた皆さんひとりひとりに、今一度お祝いを申し上げるとともに、本学在学中に得た様々な知識や経験をもとに、チャーチルのように『いかなる困難に直面しても果敢に挑戦し、しかし、焦らずに前向きに歩みを進める人生を送ってください！』とエールを送り、告辞いたします。

令和2年3月19日

帯広畜産大学長

奥田 潔